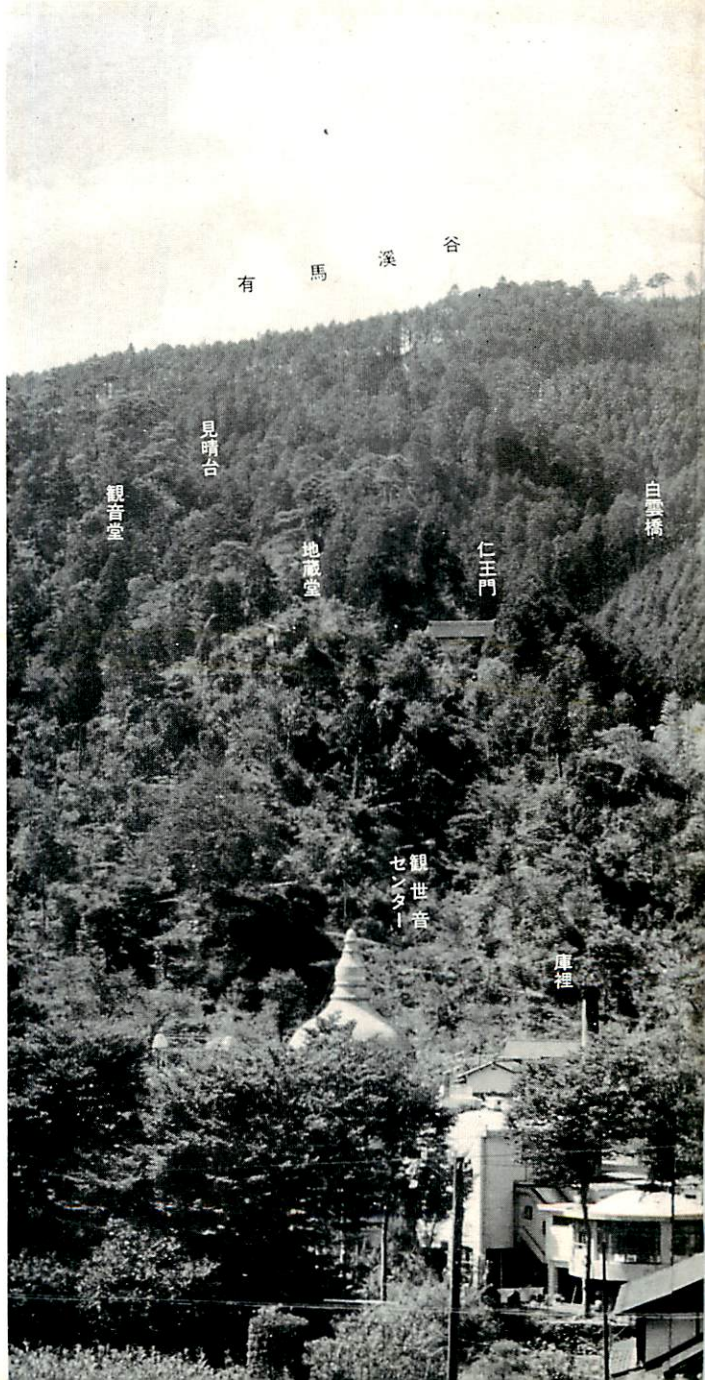


白雲山  
鳥居観音のしおり

1号



## 序 文

発願主 平沼弥太郎

### 白雲山鳥居観音の栞発行について

新年お芽出とう存じます。

先ず四方有縁の皆様御揃いでご機嫌よく新春をお迎え遊ばされましたこと大慶に存じます。

降って私七十五回のお飾りをくぐる事が出来ました事は誠に有難いことと存じます。鳥居観音も昭和十五年に今の奥の院聖観音の開眼落慶式を挙行いたしました事から数えて昭和四十五年には三十周年を迎えることとなりますが、その間色色の関係で中途半端な状態のままに成っている処もありますのでこれが完成に余生を捧げたいと存じています。鳥居観音講は七八年前に三蔵塔発起人事務局に於て十万人講を作るべく計画されて三千人程の講員は出来たのですが、御承知の事件のために有名無実の状態におちいるの止むなきにいたり尚本部も手うすのため連絡も致さずしたがってご参拝くださった講中も少なく名簿も一団体で数百人という大口が数口もあって整理にも手のつけようもない有様で本部としては八十余万円の欠損を生ずる状態となり旧講員の皆様に対しては誠に申し訳もございませんが昨年十数名の幹部の方にご集願ってご相談の結果旧講を発展的な解消をして新しく発足する外はないと言う結論に達しましたので今後もよろしくお願い申し上げる次第でございます。お蔭をもちまして現在三、〇〇〇名の講員がご加入になりましたが、尚講中の結成中の地区も沢山ありますので、皆様のご意見を充分と尊重いたしました近々結成式を取り行いたく存じます。これまでに到りました皆様のお骨折に対し心から感激していると同時に本部に於ても今後はより一層責任をもってご期待に添うよう奉仕する覚悟でありますから鳥居観音講員の皆様はご自分の霊場であると言う御氣持で思想善導のため当山育成に御協力を御願ひ申し上げる次第であります。

ご承知の通り都会の空気は益益汚染され信仰心も時代と共にうすれ世相の不安定等から多くの人々の心と体の健康を守るためにも信仰を通じて此処幽邃な名栗溪谷に健康増進と慰安をかねた健全な行楽を鳥居観音にお求めいただき併せてご参拝くださるよう御願ひ申し上げます。甚だ簡単で要を得ませんが新年のごあいさつにかえさせていただきます。

## 玄奘三蔵法師のこと

有馬凌雲

鳥居観音の白雲山嶺に、玄奘三蔵法師の銅像が建立されて、その点眼除幕の儀式が、曹洞宗管長高階禪師の御親修の許に執行されたのは、三年前の昭和三十九年五月二十七日、若葉薫る陽春の候であった。これも亦数年前建立された玄奘様の御

靈骨を祀る三層の塔前広場に、一際目立つ素朴な中に法師の逞しい遍歴の姿を巧みに表徴された銅像である。平沼発願主の原型、監製によるものである。

玄奘三蔵法師の名を知る者は案外少なく、かの有名な西遊記を読んだ人が知る程度で、それとも法師の内面的なもの迄には及んでいないかも知れない。

法師を一口に表現するとすれば、大翻譯家であり、大語学者であり、従つて仏教文化の大恩人である訳である。

そこで、この一生の法師の姿を短い文言の中に

表現することは却つて法師の尊厳を傷つけるおそれがあるかも知れないが、今はこれを万謝しつつ、要約して調べて見よう。

× × × × ×

玄奘三蔵法師は中国河南省、この地の名門陳氏恵の四番目の子として西歴六〇〇年（今から一三〇〇年前）の生れである。

眉目秀麗で賢才、十三才の時に僧籍に入りこの時から玄奘の称号を受けた。長ずると共に名僧、知識に就て経説等を学び、早くも世間から不世出の厚学、俊才の土と騒がれた。

奥行深い経説、宗論を研究して掘り下げれば掘り下げる程、疑問、難解にぶつかり、そのため真理を究めるための欲求は、弥が上にも燃え上り、更に根本のものを突きとめたいと法師の決意は堅かった。

× × × × ×

学究の志旺盛な法師は、長安から意を決して、ひそかに目的地目指して旅立った。時に二十六歳。

山を越え、河を渡り、砂漠を横切つて、途中想像もしなかった恐ろしい危難に遭遇したが、よくこれに耐えて遂に目指す印度に入ることが出来た。玄奘は印度各所に留まつて、多くの賢哲智識人から経論諸説を学び、古代梵語を始めとして、仏典研究に専念した。多くの人々から尊敬と信頼を受けたので、諸学の研究には非常に便宜を得られた。尽きる処を知らない多くの研究材題を残すことが惜しまれたが、早くも齢四十が夢の間に到来したので、帰国することを決意して、多数の経典や、仏籍と共に大勢の人々から別離を惜しまれつつ帰途についた。

× × × × ×

帰国した玄奘は、経論の翻譯に従事し、約二十年を費して一千三百余巻を訳し終えた。玄奘の旅行中から、在印中の苦難は筆舌に尽し難いものがある、からだにも相当無理が原因してか、病患

を得て遂に六十五才を期として尊いそして苦難に満ちた生涯を閉じた。

× × × × ×

梵文、梵典が正しく翻譯されて、仏教文化の開發、振興に非常に貢献したことは言う迄もないが、この蔭の功労者があまりにも特に吾が仏教家に知られていないことは遺憾である。

ここに在俗の篤信家に依つて玄奘法師の顕彰事業が行われたことは、誠に快心事とすると共に玄奘法師の広大な功績を賛歎し、仏教徒普く報恩謝徳の信念を深めなければならぬことである。

× × × × ×

### 三 蔵 と は

三つのものを蔵しているということであるが、その三つとは、経（定学即ち禪の修業）を説き、次に律（戒学即ち戒律の修業）を説き、三つに論（慧学即ち真理を達観する修業）を説く、この三つの経、律、論の修学に達するものを三蔵とい

う。(別には大小乗各経律論の三つを云う)総じて各法師の美称であるが、特に玄奘の如き翻譯師の称号を指しているのである。

### 白雲山鳥居観音附近の風物

東京近郊からの日帰りコースとしてここ鳥居観音を参拝して附近の風景を愛でながら溪に又山の尾根を二三時間探勝することは時間的に見て丁度よい処である。

琴平山を背景にこの附近は白雲山鳥居観音の境内で自然の山が公園式に手入れがされて散歩道も完備してまことに気軽なコースである。先ず鳥居観音にお参りして右横に入ると左に登り口がある。竹林が茂りそこを通りぬけると楓つつじ桜の疎林となるが、今は落葉して冬の陽指しが和らかく降り注いでいる。なだらから坂を百米程登ると山の中腹の広場に出る左の小高い所に子育地藏尊が祀られていて正面の高い石段の上に仁王門がどっしりと建てられ門の左右にこの山から伐られた

檜の大樹で彫られた仁王様が立っている。この辺から村の部落が見下ろされ時折に鶏のなき声が聞こえてくるのも静かな山峡の昼をしみじみと感じさせられる。仁王門をくぐって続く坂道を行くといよいよ奥まった感じがして岩の山をうしるに奥の院がある。自然石をきざみ、そこに建てられているが、総檜造りで内部に赤線の彩色鮮やかに画かれた壁や天井には眼を見張るばかりである。発願主平沼先生はお母さんの願を実現のためここに昭和十五年聖観音が祀られたのである。ここを登りつめてから道はゆるやかに横にのびている。杉檜の古木もこのあたりから美しく西川材の代表とも言うべき樹相を見上げずにはいられない。横道は尚も続いて檜の美林の中に入る。やがて小さな滝であるがそこにかかれた橋を白雲橋と言つて自然の大きな石の橋か架けられている。ここから右斜に登る道を少し行くとこの山で一番広いところに着く。ここが三蔵塔が建てられている広場である。ここからは名栗村の大半が展望出来て名栗溪谷と山の美か満きつ出来る。この広場か

ら右へ行くと面白岩の展望台に行くことが出来る。木もれ陽を浴びてりんどうの花が朝霧にそめられて濃い紫の花を咲かせているのが珍らしい。春は鶯が終日山から谷へ鳴きつぎ、夏は時鳥が夜明けと共に鳴くのもこのあたりである。白雲山観音山の風物は一木一葉美しく自然の中に参拝する人々の心をよるこばせてくれるのである。

### 鳥居文庫について

鳥居観音境内に鳥居文庫がある。この文庫は第一文庫が昭和三十三年四月竣工し二階建延九五七平方メートルあり、一六平方メートルある。第二文庫は昭和三十五年十月の竣工で建坪は九九平方メートルある。この中に所蔵されているものは多数なので全部のせることは出来ないが、主なものをご参考までに紹介して見ます。

### 鳥居文庫所蔵及展示品

一、阿弥陀如来立像 総高二一八浬

国指定  
重要文化財

二、布袋和尚	総高	六二浬
三、中国の鉄礦彫観音	総高	六三浬
四、仏首	総高	三五浬
五、中国石彫観音頭首	総高	二一浬
六、中国玉製観世音	総高	七〇浬
七、彩色唐獅子	総高	二三浬
八、異形観善天		
九、十一面観世音菩薩像	総高	二〇〇浬
十、薬師如来像	〃	一六〇浬
十一、阿弥陀如来	〃	一三〇浬
十二、興福寺千体仏	〃	四七浬
十三、来迎阿弥陀如来	〃	七五浬
十四、愛染明王像	〃	五〇浬
十五、朝鮮古土器	〃	三二浬
十六、〃	〃	四一浬
十七、寿老人像	〃	三三浬
十八、聖観世音菩薩	〃	四〇浬
十九、大黒天	〃	二〇浬
二〇、牡丹の精	〃	一八三浬
二一、貞明皇后の御衣		

二二、アフリカの神像

二四〇種

二三、持国天王

〃 一四三種  
〃 埼玉県指定文化財

二四、多聞天王

〃 一三八種

二五、星宮神社獅子舞之体

二〇種

この文庫も講中団体の場合は無料入場出来ません。

### 子孫に引継ぐもの

さきに逝去された小泉信三氏がつぎのように述べられるが、まことに味い深い言葉である。

鵬外は人間生まれたままの顔で死ぬのは恥ずべきことであるといいましたが、われわれは祖先から受継いだこの日本の国土をただそのまま次の世代に引渡すのは恥かしいことではないでしょうか。

われわれは必ずわれわれの受ついたものよりもよりよきものとしてそれを子孫に引継ぐことを期すべきではないでしょうか。日本の国土というも

のはこれは自然によって与えられたままのものではなく長い長い年月のあいだにわれわれの祖先が手を加えてつくり上げ、われわれに伝えたものがあります。土地の開こん、耕作、道路、架線、ダム、港湾これらのものの築造改修等々手近かの実例を見ましても今日われわれが住んでいる、そしてそこに生きているこの日本の国土というものは自然によって与えられたままのものではなく、われわれの祖先が長い年月を経てそれをつくり上げ、われわれに伝えたものであります。われわれはこの祖先から伝えられたものをただそのままの生まれたままの顔で死んでいくのと同じようにそのままの姿で次のゼネレーションに伝えることは、これは責任を果し得なかったものとして恥じて然るべきではないかと思えます。なにものかをつけ加えて望むらくはなるべく多くのものをつけ加えて次の世代にこれを伝えたい。またそうすることを期すべきではないか。

小泉信三著「国家の死」より

水

竜仙

自ら活動して他を動かしむるは水なり

常に己の進路を求めて止まざるは水なり

障害に逢いて激しく其の勢力を倍加するは水なり

自ら潔くして他の汚濁を洗い清濁合せ入るる量

あるは水なり

この文句は白雲山鳥居観音の庫裡の一室に額としてかかげてあるが、本当に味合うべき教えとして私も私なりにいつも感じて水に習うことにしている。

岡部千昭

### 名栗観世音センターの御案内

白雲山鳥居観音の前に名栗観世音センターがある。この経営されている事務所から次のようなニュースをきいてここにのせることにした。

常日頃皆様方には名栗観世音センターにご来館

ご来館ご利用をいただいておりますことを心から厚くお礼申し上げます。

山紫水明風景に優れた名栗溪谷埼玉県立奥武蔵自然公園の中に唯一の御清遊娯楽の殿堂お泊り処、名栗観世音センターでは皆様方のご来館をおまち申し上げております。

春は青葉かおる野に山に鳥歌うのどけさ夏は銀河のような名栗川の清流にかなでるかじかの声、秋はにしき織りなす紅葉の谷間。冬は時ならぬ木立ちに咲く雪化粧に四季折折の大自然の美しさ。すみ切った空気の一呼吸ごとに身も心もよみがえる健康的な名栗溪谷の観世音センターでは皆様のご来館をひたすらお待ち申し上げます。

名栗観世音センター前にはゆかりも深い鳥居観音が御祀りしてあります。御慈悲の手をさしのべて限らない仕合せをお与えくださる観音様、四季の変化に富んだ霊峰白雲山、その山麓にその名も床しい名栗観世音センター。

満満とお湯を湛えた万病即効の大浴場、階上大ホールの舞台では歌と踊りの競演に湧く歓声の絶



鳥居観音の年中行事

一月 元旦 新年祈禱会

十七日 月例観音経読誦会（毎月執行）

二月 三日 節分会

十五日 釈尊涅槃会

三月二十一日 春季彼岸会 観音講家内安全祈禱会

春季賛仏歌大会

四月 八日 釈尊降誕会

十七日 本堂落慶式及千手観世音開眼式

五月十七日 御詠歌大会

七月 十日 四万六千日 特別法要

八月十六日 孟蘭盆会 流灯大供養会

九月二十三日 秋季彼岸会 講員家内安全祈禱

十一月十七日 秋季特別法要

十二月 八日 釈尊成道会

十二月三十一日 除夜特別供養会

右の外随時信徒講員のお求めにより各祈禱祈願法要詠歌大会そ

え間なくお泊りのお客様にも充分と御満足頂ける  
気の利いた造りの小部屋は静かな山峡の夜の気分  
を心ゆくまで味わっていただけます。そして江戸  
前をはるかにしのぐ山と川の味自慢のご料理格安  
で安心してお泊りいただける名栗観世音センター  
どなたにも自信を以ておすすめ出来る名栗センタ  
ーでございます。御家族づれでも団体様でも一年  
中行楽の最適地としての処です。是非ともご来館  
くださいますよう従業員一同サービスに万全を期  
して心よりお待ちしております。

場内 ローマ風呂、婦人子供風呂、舞台付大広

間、室内娛樂室、大小お座敷

お宿泊 素泊り七百円より二食付一二〇〇円

貸切室料、一室六百円より、

営業時間 午前九時より午後六時まで

入場料 大人お一人様百五十円

小人お一人様八十円

団体割引ご相談に応じます。

の他の法要を執行いたします。

## 白雲山鳥居観音講規約

### 一、目的

此の講は鳥居観音講と称し鳥居観音を信仰奉賛する者を以て組織す

講員は鳥居観音に参拝して信仰を啓め且つ講員相互の親睦を深める事を目的とする

### 一、組織

(1) 本部は鳥居観音内に置き各講元との連絡を密にす

(2) 本部には部長一名 事務員若干名を置く

(3) 各地区に講を設置して各講毎に講元を置く

(4) 講員数は講元毎に五十名乃至百五十名を以て組織する

(5) 講元は常に本規約に従い本部と講員との連絡を密にし講員の増加に努め併せて信仰心を啓め講の円満な発展に努力すること

(6) 本部に於て年二回以上講元会議を開き講の運

営連絡等に対する打合せを行う

(7) 講元は講元及び役員住所氏名並に講員の総数を本部に報告すること

尚講役員及び講員数に移動があつた場合も報告のこと

(8) 講元(代理人)は鳥居観音の諸行事のある場合は努めて参拝すること

### 一、入講金の徴収方法

(1) 講金として一人につき年額二百円也を本部に納入し祈禱料及び通信連絡の諸経費に充当する

### 一、参拝について

(1) 本観音講は年一回必ず団体参拝すること

(2) 講の団体参拝の時は講旗を使用すること

(3) 講員には徽章を使用して引卒の便を図ること

### 一、団体参拝に対する特典

(1) 団体参拝者は祈禱札を無料で受けられる

(2) 団体参拝に限り鳥居観音の諸施設を無料で拝

観出来る

(3) 団体参拝者に限り観世音センターの入場料は一人につき三割引とし小室を使用する時は規定

料金の三割引とする

但し土、日祭日は右を適用せず

尚十二月一日、二日、三日の間は入場料半額小室使用の場合も半額としこの期間中は土日祭日も含めて取扱う。

### 鳥居観音講結成に就て

講の結成につきましては各方面から信仰を通じて講元各位のお骨折と講員の皆様のご理解とによりまして多数の講中結成と予定のものがありまして誠に有難く心から感謝申し上げます。尚今後随時結成されますようお願いいたします。

#### 講中結成状況

地区名	講名	講員数	講元及世話人名
川崎	鳥居観音講中	一〇〇	片山道則 平井敏治外
同	不二サッシ講中	三六	佐野友二 原正三郎外

武蔵野	同	三〇	宮沢唐子生 内田桂一郎
浦和	同	一〇五	藤沢信吾 吉野信吾 関 柢二外
与野	同	四二〇	梶谷真一外
狭山	同	九八	石川求助 井上竹治 清水逸平外
名栗	同	九〇	平沼寛一郎外 町田仲太郎外
飯能	同	五〇	武居藤吉 山崎寅吉
川越	同	五〇	原田愛助
与野	同	五〇	井上正雄外
川崎	同	五〇	林 外
武蔵野	同	二〇	内田外
浦和	同	五〇	吉野 望月

所沢	瑞穂	川口	小鹿野	秩父	東林山	須	行田	大宮	飯能	狭山	与野
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
所沢	瑞穂	川口	小鹿野	秩父	東松山	加須	行田	大宮	飯能	狭山	与野
一〇〇	五〇	五〇	五〇	二〇	一〇	一〇	五〇	七〇	一六〇	一〇〇	五〇
齋藤	鈴木	飯塚	山中	宮前	中里、山口	宇和野	川端	原田	武居、山崎	石川	井上
		大野		小林							
		大泉		小池							

計	名栗	坂戸	日高	八王子	熊谷	仏子	川越	青梅
	同	同	同	同	同	同	同	同
	名栗	坂戸講	日高	八王子	熊谷	仏子	川越	青梅
三三講								
三、五〇〇	八〇	五〇	五〇	一〇〇	五〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇
	岡部	平井	後藤	田辺	奥田外	平岡	山崎	鈴木
	田島	関口	新堀	内田外		宮岡	竹谷	滝上
	浅見						原田	

俳句 ○草のやど吟行より

観音へ蝶寂光の翹たたむ

富士洞

山つつじ終らんとする陽のみだれ

銀城

つつじこく峯の白亜の塔尖る

信

老鶯や石が息づく溪の寂

清風

沈丁の香にむせおわす観世音

草風

慈悲給う花の心へ濡れ光る

理骨

山薫る木小の芽吹き眠る刻

可亭

東京にはなき空の色すみれ咲く

千秋

鴉は去れ四方囀りの庫裡に座し

和夫

春もやの動いて鳥の声弾む

秀夫

○海底用人吟行より

ばさばさの大樹の黄葉老いたる蛇

兜太

雨の煙草へ霧変化して橋かすむ

流一

西ばかり焼く溪谷の樹の泣きぐせよ

弘夫

一むらの紅葉少女の色に濡れ

弘夫

小さき火種焚き捨ててあり獵夫

よし子

藤棚に私が下りねむい山河

よし子

鉾杉を守る村冬へ色もやす

さち

逝く秋や水流るる果空の果

古刹なる菩提樹冬に入る光り

花芒風光り来て又返す

河のある風景秋を引づりぬ

木の実道バズゆさゆさとかたむきて

散る紅葉手にうめ一すじなる愛を

柿赤し柿盗人のなく赤し

久に逢う人に紅葉の言葉から

道さらに紅葉の濃さと蝮を増し

二人静心にしみてかんざしに

麦映

碧嶺

雲女

理生

欽舟

花舖

地光

吉永

未智磨

百子

秋葉山

琴比羅神山

面白岩

三蔵塔

蛇の目傘四阿

→  
観音滝

鳥井文庫

梅咲之墓

梅月堂

植輪型四阿

本堂

観音瀑

名栗川

